

# 玉川教会たより

日本基督教団玉川教会  
町田市玉川学園 4-5-32  
電話 042-732-9321

## 「神の支配」

「神は言われた。『我々にかたどり、我々に似せて、人を造ろう。そして海の魚、空の鳥、家畜、地の獣、地を這うものすべてを支配させよう。』」 (創世記 1章 26節)

この夏は「酷暑」に「豪雨」、「台風」に「地震」と、自然の驚異を強く感じさせられることが多くありました。それまでは「想定外」とされてきた事象がもはや「想定外」ではなくなり、むしろこれからは私たちに「想定内」であることを認識させることの方が多いになっているのかも知れません。

元々「自然」と言われるこの世界は天地創造の物語の中で、主なる神さまがお造りになったことが創世記に記されておりますが、この「自然」と私たちのことを最もわかりやすく記しているのが、創世記 1章 26節の言葉です。そこでは「全てを支配させよう」とされた神さまのご意志が表されているのですが、この箇所は、同じ聖書でも口語訳聖書では「治めさせよ」という言葉が使われています。実はこの「治める」という言葉の方が良く表していると言えるのですが、それはこの言葉が「自分ではない誰かから預かったものをより良く用いていく」という意味であるからです。「支配」とは言葉的には「力で押さえつける」という意味合いが強くなりますが、神さまは私たちに、この世界を力尽くで押さえつけることではなく、より良く用いることを任せられているのです。この言葉を改めて私たちは捉え直していく必要があると思うのですが、それは、私たち人間には神さまのお造りになったものを勝手気ままに自由にすることは出来ないということです。

私たち人間は様々な被造物と違い多くのことを学ぶことが出来ます。言葉をはじめ、様々な「科学」を知り、生き物の命に関わる摂理をも学ぶことが出来るようになりました。しかし、そのことを知ることと、私たちが「自然」を治めることは別の次元の話です。事実、私たちは台風や地震といった「自然現象」のメカニズムを知ることが出来ても、それを防ぐことはもちろん、制御することも出来ません。私たちに出来ることは、その前触れを知り、自分の身を守ることを伝えるということしかありません。

では、神さまは私たちに何を期待してこの世界を「支配する」事をお任せになったのでしょうか。それは、私たち自身は無力であること、そして私たち自身も、その神さまに創られたものであることを自覚させるためです。「神に似せて造られた」からといって、決して私たちは神に近づくことが出来たわけではありません。ましてや、神さまの代わりに治めることが許されたわけではありません。ただ、神さまの創られた世界に生かされていること、そしてその世界をどのようにすることが神さまの御心なのかを考えていくことが出来るだけなのです。神の支配の中に私たちも生かされていることを改めて知る者でありたいと思います。